

飯館村仮設住宅☆ヒマワリ3,000本計画実行!!! in 福島市松川町・旧松川小学校敷地

2014.6.7~8

山下ようこは、自ら募った首都圏からのボランティアスタッフ等とともに、1泊2日の日程で福島を訪れ、ヒマワリのタネまきを行いました。

6/7(土)の午前中に都内を車で出発、午後3時過ぎに現地入り。約3時間にわたり、雨の中、スタッフは役場の方と一緒に準備作業。翌8日(日)はタネまき本番。飯館村の仮設住宅の皆さんと一緒にタネまき。その様子を写真でご紹介しましょう。

6月7日(土)

雨の中、スタッフ一同、力を合わせて準備作業。タネまきする場所は、草の生えた斜面や砂利を敷き詰めた場所等。総延長は約150m。だんだんと雨が強くなり、皆、びしょぬれでした。山下ようこ所有のデジタルカメラも、この雨のために途中で故障。作業するスタッフ全員の様子をご紹介できず、残念です。



まずは、植える斜面の草刈りと掘り返し。翌日、すぐにタネまきできるよう、力仕事に全力投球!!びしょぬれだったのは、雨に打たれたから、というだけでなく、たっぷり汗をかいたから、でもありました。



鎌を持って、身軽に斜面を登る青木貞夫さん---NPO法人東京すまいるの会理事長(兼山下ようこ事務所事務局長)

被災地ボランティアに精力的に取り組む落語家(真打ち)吉原朝馬さん

ご夫婦そろっての参加、蛭原数美さん(左・木材会社勤務)ウメヨさん(右・看護師・助産婦)



こちらも、震災後、ボランティアとして各地で支援活動をおこなっている山下金吾さん(建築家)。今回は、所有する8人乗りの車にみんなを乗せてきてくださいました。

農具の扱いもお上手な川崎正信さん---山下ようこの大学の先輩/元中学校教諭

こちらは造園のプロ、大戦力として活躍してくれました。都内のアゴラ造園勤務・石井匡志さん(千葉大学同窓)

ただ一人地元参加、福島市在住の木村芳輝さん(元ラジオ福島編成部長)



そして山下ようこ。雨合羽の上に帽子をかぶって作業。土が固く、スコップの先がなかなか入らないような状態でした。このあと、雨と泥汚れでカメラがダウン!!全員の奮闘ぶりを撮影することができず、申し訳ありません!!

6月8日(日)

いよいよタネまき本番。いざ、ヒマワリ3,000本計画実行へ。予報では前日に続き、雨だったもの、お天気は曇り空に。感謝!!



午前8時20分、旧松川小学校仮設住宅に到着。タネを箱から出して準備。タネは巽サカタのタネから譲り受けました。



8時半過ぎ。早くも仮設住宅の住民の方が集まり始めました。



予定通り9時スタート。山下ようこ(オレンジ色のジャンパー)が挨拶し、そのあと用意したプリントをもとにタネまきの説明。

全参加者は43名。6班に分かれ、タネまき作業。



笑顔でタネまき。写真左端に立っているのは、ボランティアスタッフ佐々木ひとみさん。石井さんと同じアゴラ造園社員(千葉大学同窓)。前日の準備作業も、ずぶぬれになりながら、プロの仕事を見せてくれました。



写真前列の赤いジャンパーは、千葉大学前学長(医師)の齋藤康先生。今回は一人のボランティアとしての参加です。旧松川小学校は齋藤先生の母校。童心に帰って?、一緒にタネまき。前列右は、飯館村役場の菊池章一さん。今回は窓口として、様々なお心配りをいただきました。前日の雨中の作業も一緒におこなってくださいました。後列の左手前は、地元に住む齋藤先生のお兄様(歯科医師)。やはり旧松川小学校が母校、飛び入り参加です。その隣は、齋藤先生の奥様で飛び入り参加、千葉からいらしてくださいました。



前列手前は、この仮設住宅の自治会長・泉初男さん。後列真ん中はこの仮設住宅管理人の佐野小百合さん。お2人の様々な配慮があったからこそ、今回の計画の実現にこぎつけることができました。



山下ようこも、いくつかの班をかけもちしながら作業しました。



1粒ずつ、深さ1cm程度の穴にタネをまき、土をかぶせて、軽くおさえます。



そして仕上げに、じょうろでたっぷり水を与えて完了!!



タネまき作業、無事に終了!!みんなで記念撮影。

ヒマワリ3,000本分のタネまきは、無事に終了しました。順調に育てば、8月上旬に花開きます。その花言葉「希望」のように、皆さんに希望の光を感じていただくことができれば、と念じております。参加してくださった飯館村の皆さん、ボランティアの皆さん、ありがとうございました。そして、仮設住宅の土地の所有者であり、土地の使用をご許可くださった福島市教育委員会様にも、ここに感謝申し上げます。